

第3回 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会
ワーキング部会B. 職場・地域 会議録【概要】

1. 開催日時

令和7年11月5日（水）18:00～20:00

2. 開催場所

八尾市文化会館プリズムホール4階 会議室2

3. 出席者

※ 委員8名中5名が出席。本審議会の規則第6条第2項の規定に照らし、有効に会議が成立。

（委員） 金委員、草積委員、高木委員、高瀬委員、朴委員

（傍聴者）0人

（事務局）人権ふれあい部人権政策課課長補佐 阪田
人権ふれあい部人権政策課係長 池田
人権ふれあい部人権政策課副主査 山崎
株式会社HRCコンサルティング 東野・松村・小西

4. 案件

- (1) ワークショップ
- (2) その他

5. 会議資料

- ・ パワーポイント資料
- ・ 第2回ワーキング部会B. 職場・地域 グループワークのまとめ
- ・ 第3回ワーキング部会B. 職場・地域 ワークシート

6. 議事内容

【職場】

<グループ発表>

職場のテーマが、(1)企業等における人権啓発の推進、(2)特定職業従事者に対する人権啓発の推進でしたので、これに絞って議論しました。前提として、これまで議論してきたことと、出ていないことや、改めて押さえておきたいことの意見が議論のポイントになったと思います。

(1)企業等における人権啓発の推進

この分野は両方にかかってくるような、改めて企業で人権啓発を進めていくにあたって「こういうところをしっかりと押さえてほしい」という内容です。

1つは、レイシャルハラスメントで、民族・人種に基づくハラスメント。概念的なものがありますが、マイクロアグレッション。「そんなつもりじゃなかったのに」と言いながら、当事者にとって実は酷い発言になっ

ている。レイシャルハラスメントについては民族に基づくケースですが、マイクロアグレッションは多様な背景をもった人たちに対する理解を深めるにあたっての大事な概念である。そこは発達障がい人や、外国籍、日本籍のコリアンルーツ、LGBTQ+a、ハンセン病回復者や家族、そういう人たちのことを、しっかり押さえながら正しく理解していくというところが必要である。

また、複合差別的なこともある。「ネット上の差別、部落差別」もある。

企業における人権啓発の推進ということで、具体的ということであると、「入居・土地差別に対する仲介、家主、保証会社への研修」が大事である。社会モデル、合理的配慮をしっかりと企業でわかしてもらおう。その解決モデルも集約しながら広めていくことも必要。

「ビジネスと人権」を浸透させていくということや、「外国人受け入れの企業の責任が地域任せ」になっているのではないかと。センシティブな個人情報の取り扱いが意外と浸透していないので、そこに関わる研修も必要なのではないか。

(2) 特定職業従事者に対する人権啓発の推進

特定のなところなので「こうあるべきではないか」ということが意外と出たので、あまりグルーピングはできていません。

「年をとっても女性・男性」であることから「同性介助の必要性」や、利用者のセクハラ、レイハラ等は結構ひどい状態があるので、研修もあるし、調査もおこなって、いったいどんな実態があるのかということもポイントとして入れておくべきだと思う。

医療従事者のレイシャルハラスメントも結構ひどい状態があるとの実態を知っている。また、介護従事者による虐待も起こっており、課題化されているのでその研修もあります。

また、外部や指定管理にかかわるところで、とりわけ出たのが住宅部局。公営住宅の管理などにかかわって従事者への人権研修等が必要ではないか。

警察や自衛隊がらみになるのですが、警察のレイシャルプロファイリング「外国人を見つけるとすぐ職務質問をしている」という課題を研修で改めてほしい。議員さんの研修も必要ではないか。総じて、被害を受けたり、問題だと感じたりした人が、人権侵害、差別、ハラスメントに関して相談できる窓口を作るべきではないか。

介護の関係では、意思疎通できない障がい者に対する対応であるのが、障害・介護従事者へ対する研修につながるということ等、根底にあるのは優性思想の問題である。

だから、概念的なところをしっかりと押さええてそれぞれの分野での研修が必要になってくるのではないかと、との議論でした。

【地域】

<グループ発表>

まず、中心にありますのが、八尾市人権啓発推進協議会の常任委員のみなさんです。この方々が中心になって活動していただかないと、なかなか進むスピードが遅くなるのではないかと。

そして、この方々が活動していただくことで、いろんなどころに波及していく。(1)地域に根づいた人権教育・啓発の推進にもなるし、(2)家庭における人権教育・啓発の支援にもなる。私を含む、人権協の常任委員さんに頑張ってもらおうとの話になりました。

八尾市では32の地区福祉委員会があって、八尾は広いので山の方から平野に近いところまで、それぞれに常任委員さんがおられる。それぞれの地域の活動が違う。そこで、全部が一緒にはならないけ

れども、八尾市で「あんたのところの地域はどうしているの?」、「うちはこんなことをしている」などの情報交換があって、それを発展させていくと、それぞれにつながっていくのではないか、と思います。

(1)地域に根づいた人権教育・啓発の推進

まずピンクシャツ。みなさんもお存知かと思いますが、いじめ反対の取組みで行っております。これも地域によって温度差がありますので、みんなで考えて拡大させていく。

(3)相互理解と交流の推進

世代間の人権に対する相違。おじいちゃん、おばあちゃん。こども。孫。すべて人権に対する価値観が違う。最近はあまり言われないが、被差別部落の問題などは、80歳、90歳くらいのおじいちゃん、おばあちゃんは未だに持っている。

ところが、こども、孫になったら「それ何?」という時代になってきている。そこで「おじいちゃん、今は違うで」ということをこどもや孫からも伝えていかないといけない。今はYouTubeでもそういった問題をわざと流している。それは今の時代じゃない。こどもたちは全然知らない話になってきている。そのあたりも福祉委員会による人権研修の回数をアップさせてみんなが「今はこうなっている」ということを知らしめていかないといけないのではないかと思います。

(4)市民団体や研究機関による活動の促進

地域でさまざま活動があります。フェスタとかこどもまつりとか。わざわざ「人権研修」という看板を掲げるのではなく、フェスタをしているところに小さなテントを1つ地域で借りて、そこでパネル展などでさりげなく人権を体験してもらうような試みも良いのではないかと。

それも、人権協の常任委員さんが動いていただかないと前に進みませんので、ここのグループでは常任委員さんを活性化させていこう、と話になりました。

以上